

主権者教育を推進する群馬県大学コンソーシアムに所属する学生チームが作成したインタビュー記事を紹介します。今回は第4回、Dチームの記事紹介です！

## Dチーム


高崎経済大学、東京福祉大学、群馬県立女子大学の学生でチームが組まれています。県職員インタビューは群馬県庁の「戦略企画課 総合計画・EBPM推進室」に、議員インタビューは金井県議に行いました。



◎第4回は、Dチームの県職員インタビュー記事、そして県議会議員インタビューの記事を添付します。

インタビュー記事の連載は今回で最後となりますので、ぜひ最後までご覧ください！

### 県内市町村の選挙情報

選挙の種類	告示日	投票日	関連QRコード
みどり市長選挙	4月5日（日）	4月12日（日）	

## 群馬県のEBPMについて

### Dグループ

「インタビュー先」

戦略企画課総合計画・EBPM推進室

「担当職員」

宮下係長、砂長主任

「インタビュー者」

県立女子大学 二年 落合 麻友

県立女子大学 一年 麩澤 香那

高崎経済大学 三年 茂木 智哉

高崎経済大学 三年 森 由羽



Q EBPMを推進する中で課題は何ですか？

一番は、職員の自分事化の部分だと感じています。EBPMが負担増と捉えられ、利点が十分伝わっていない点がボトルネックになっているのだと思います。EBPMの利点が職員に十分に伝わったうえで、EBPMに励むことが部局にとってもメリットのある制度になることが望ましいと思っています。

Q 前提たるデジタル化が不十分だと感じることはありますか。

現状デジタル化については不十分だと感じています。ただ、実際データ化するのが難しいものもあつたり、費用対効果も考えたりする必要があります。デジタル化に限らず、現状EBPMには足りないことも多く、完璧なものではないと自覚していますが、現時点でできることはありますし、完璧ではないながらも有力な改善ツールだと考えています。

Q 実施部署と評価部署が同一な場合もありますか？

外部評価も方法の一つですが、外部評価前提にロジックを整えるなど別の問題も生じ得ます。庁内においては実施と評価を同一部署が担っていますが、指標が客観的である限り問題ないと思っています。

Q 県職員として働くことで得た新しい視点はありますか？

政策・事業を構造化する視点を得たと思います。国への説明資料作成やアンケート設計など、幅広い業務で役に立っていると感じます。

Q 仕事で苦労することは何ですか？

異動のたびに業務を一から覚える必要があることです。特に異動して半年くらいは心理的にも業務時間的にも大変です。成果の定義が多様で、成長実感を得にくい点も苦労しています。

「編集後記」インタビューを終えて

施策を考えるうえでの難しさを現実に捉えられた取材でした。(落合)

データやロジックも有用だが、人々の経験も重視されている現状を学びました。(麩澤)

EBPM推進の現場で行政の責任と課題を学んだ取材でした。(茂木)

拙い質問でも意図を汲んで回答頂いたことに感謝しています。群馬県のデジタル化に期待したいと感じました。(森)

(実施日…令和七年九月十二日)

「インタビューした人」

金井 康夫 県議

【担当】

高崎経済大学 三年 高橋 岳玖  
高崎経済大学 三年 森 由羽



### 医師確保の鍵は「給料」ではなく「生活環境」

Q 医師確保には生活拠点の形成が不可欠だと指摘されています。医師本人だけでなく、家族まで含めた定住支援策については、どのようにお考えでしょうか。

医師の確保は、単に給与を上げれば解決する話ではありません。実際、医師の方に話を聞くと、必ず出てくるのが「家族」の問題です。たとえば、「子どもが中学生ですが、この地域の教育水準は

どうですか」ということは本当によく聞かれます。企業誘致も同様です。税制優遇よりもまず、「社員の子どもの教育環境はどうか」と問われる。つまり、医師確保は企業誘致と同じ問題なのです。医師が来れば地域が良くなる、ではなく、地域の教育や生活環境が整って初めて医師が定住してくれると考えています。

その意味で、今年春に統合された新・沼田高校は象徴的です。新沼田高校では

- 進学型単位制
- 一年間の海外留学を単位認定
- 総合型選抜（旧AO）に特化した「文理探究コース」の設置

この3点を柱にしています。特に文理探究コースは県内でも注目度が高く、入試倍率は1.86倍。北毛地域では初めての水準です。これまで沼田地域の中学生は、高崎・前橋・渋川へと流出していました。ところが令和6年度以降は流入超過に転じています。今では逆に「沼田市内の子どもが沼高に入りづらい」という現象まで起きている。これは、教育が地域の魅力になり得ることを示しています。

### 県議会議員は「監視役」だけではない

Q 県議会議員は知事を監視する役割が強い一方政策を自ら実現するのは難しいのでは、という声もあります。

確かに、二元代表制の中で県議会は、基本は執行部（知事）のチェック役ですが、議員提案で条例を作ることもできます。例えば

- 観光振興条例
- 「ヤード条例」（無許可スクラップヤード対策）

これは議員主導で進めています。また、道路の補修など、条例に至らない案件でも、市民からの通報を行政につなぎ、迅速に改善してもらおう役割も大きいと思います。「議員は何をしているか分からない」と言われがちですが、だからこそ情報はプッシュ型で発信する必要があると考えています。

### ケア労働の低賃金問題と技術革新

Q ケア労働が女性に偏り、キャリアを断絶させる問題があります。

賃金が低い、負担が重い、だから人が来ない。これは事実です。国も賃上げに動いていますが、介護は身体的リスクが高く、十年続ければ多くの人が腰を壊す。だからこそ

- 賃金の底上げ
- 長期就労を前提にした補償
- 介護ロボットなど技術導入

これをセットで考えなければいけません。群馬県には産業技術センターがあり、医療・介護分野の技術革新は強みになり得ます。

人口減少は避けられません。重要なのは減ることを前提に、どう社会を設計し直すかです。学校統廃合や施設再編は反発も大きいですし、私自身、相当批判も受けました。でも、今やらなければ十年後に取り返しがつかないので、これは政治が決断すべき領域です。

**Q** 県議会議員は、条例や大きな政策以外に、どのような役割を担っているのでしょうか。

県議会議員の仕事は、条例制定や予算審議だけではありません。たとえば道路の補修一つを取っても、住民の方は「市道か県道か」までは分かりません。そうした声をまず受け止め、適切な部署につなぎ、改善まで持つていくことも重要な役割です。

私は市議を十六年経験してきたので、行政のどこに話を持っていけば動くのかが分かっています。その強みを生かして、できるだけ早く対応するよう心がけています。

**Q** 介護が若い世代の人生選択に影響を与える問題について、どう考えていますか

介護を理由に、結婚や進学、就職を諦めざるを得ない人がいる現実には、見過ごせません。本来、介護は個人や家族だけが背負うものではなく、社会全体で支えるべきものです。

在宅介護を進めるにしても、「家族が全部やる」仕組みでは長続きしません。だからこそ、制度・人材・技術を組み合わせ、誰か一人に負担が集

中しない形を作ることが政治の役割だと考えています。

**Q** 総務企画常任委員会で、特に重視しているテーマは何ですか

最大のテーマは人口減少です。若者が大学進学や就職を機に東京へ出ていき、そのまま戻らない。この構造を変えない限り、地方の人口減少は止まりません。

東京は家賃も物価も高く、結果的に子どもを持ちにくい環境でもあります。群馬県が「子どもを産み育てやすい場所」として選ばれるために、何が足りないのかを常に考えています。移住希望地ランキングで上位に来る理由を分析し、実効性ある政策につなげていきたいです。

### 【編集後記】インタビューを終えて

今回のインタビューを通じて強く感じたのは、金井議員の県政に対する姿勢が、沼田市議会議員としての長年の経験にしっかりと根差しているという点です。県議会というと、どうしても県全体を俯瞰する大きな政策や制度設計に目が向きがちですが、金井議員の話からは、道路補修や生活環境の改善といった、住民の日常に直結する課題を起点に政治を考えてきた歩みを感じられました。

私自身、沼田にゆかりがあり、地域の変化や課題を身近に見てきた一人の有権者として、議員の言葉には説得力がありました。市議時代に積み重

ねてきた「声を聞き、行政につなげる」という姿勢が県議となった現在も失われていないからだと感じました。県政の話でありながら、どこか「自分たちの暮らしの延長線上」にある問題として語られているように感じられました。一有権者として、政治を評価する際には、華やかな実績だけでなく、どのような現場経験を積み、どのような地域と向き合ってきたのかを見ることの重要性を、改めて実感しました。(高橋 岳玖)

今回のインタビューで印象的だったのは、金井議員の短期的な成果や理想論に飛びつかない、現実的・理性的な姿勢でした。医師の確保や人口減少の問題に関する議員の応答からもそれが読み取れると思います。また、諸々の都合ゆえに記事にはならなかったが、自身の所属政党以外の提案についても、是々非々でその良さを認めていた点も印象的でした。(森 由羽)